

# 山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi  
Veterinary Medical Association

第 763 号 令和 6 年 12 月

## 目次

○第 1 回支部長会議開催報告（常務理事）	1
○第 3 回理事会開催報告（常務理事）	2
○岩柳支部研修会レポート（岩柳支部 弘中由子先生）	3
○山口支部研修旅行開催報告（山口支部長 藤原宣義先生）	4
○新入会員紹介	
・徳山支部 金指湧真先生	5
・山口支部 三好未緒先生	5
・山口大学支部 岡本土毅先生	6
○リレー随筆	7
○ゾウの体重測定（徳山支部 藤原果南先生）	8
○藤村修人先生を偲んで（徳山支部事務局 木原一郎先生）	9
○第 10 回山口県獣医師会館検討会議開催報告（常務理事）	9
○広島県獣医師会小動物講習会の開催について	10
○事務局だより	10

## 令和 6 年度第 1 回支部長会議開催報告

常務理事 酒 井 理

令和 6 年 10 月 31 日（木）午後 1 時 30 分から、山口市小郡ふれあいセンターにおいて、令和 6 年度第 1 回支部長会議が開催されました。

田中尚秋会長から平素からの会務運営の協力・支援に対する謝辞等の挨拶の後、次の 4 件の議題について協議していただきました。

**議題 1** 令和 6 年度上半期事業の実施状況について

**議題 2** 新たな山口県獣医師会館の取得について

**議題 3** 役員候補者推薦規程の一部改正について

**議題 4** 役員報酬規約の一部改正について

**議題 1** では、年度前半の事業実施状況について報告しました。主な説明内容は次のとおり。

- ・ 9 月末の会員数は、昨年度末の 372 名から 8 名増えて、380 名となっている
- ・ 職域別会員数は、小動物分野が最も多く 146 名、次に産業動物分野が 113 名と続いている
- ・ 今年 6 月に山口支部の岩崎明先生が亡くなられた
- ・ 各支部の推薦を受けて、日本獣医師会会長表彰 1 名、中国地区獣医師会連合会会長表彰 4 名、本会会長表彰 4 名が受賞された
- ・ 8 月 25 日に山口市で、第 60 回山口県獣医学会が開催され、産業動物 11 題、小動物 22 題、獣医公衆衛生 5 題の発表があり、参加者が 100 人を超え

る盛況な学会となった

- ・ 10 月 19～20 日に島根県松江市で、中国地区獣医師大会・獣医学術中国地区学会が開催され、本県から、産業動物 6 題、小動物 22 題、獣医公衆衛生 3 題、計 31 題の発表があった
- ・ 審査の結果、小動物分野で、宇部支部の網本宏和先生（アミカペットクリニック）が中国地区学会長賞を受賞された
- ・ 本会主催の講習会は、例年どおり、産業動物と獣医公衆衛生分野の講習会を 1 回ずつ、小動物分野の講習会を 2 回開催する
- ・ 第 1 回小動物講習会は、中国地区小動物講習会として、12 月 1 日にオンラインとの併用で開催する
- ・ 各地の共進会において、地元支部長から、優秀者に獣医師会会長賞を授与していただいた
- ・ S F T S 感染が疑われる犬猫の検体を、山口大学共同獣医学部で検査した結果、4 件の陽性事例があり、臨床症状を H P に掲載した
- ・ 狂犬病予防集合注射は、昨年度に比べ 1,052 頭減少し 22,977 頭となった
- ・ 狂犬病予防啓発ポスターの作成、狂犬病ワクチンの確保等は例年どおり準備している

- ・狂犬病予防注射事故の補償等では、各種保険に加入する等、万一の事態に備えている
- ・「学校飼育動物の保健衛生指導」、「傷病鳥獣保護救護」は、今年度も動物病院の先生方に協力をお願いして実施している
- ・今年度から、県のホームページから傷病鳥獣協力動物病院のリストが削除され、県民からの相談は、6箇所県の農林事務所が対応している
- ・災害時動物救護・支援では、6月に下関市長と、山口県と同様な協定を締結し、全県で取組を進めることになった
- ・動物病院に関する相談等13件あった
- ・個体識別措置の普及については、ホームページ等で啓発するとともに、希望する動物病院に普及啓発用MCを配付した
- ・「チーム獣医療」体制づくりでは、動物看護師統一認定機構等からの情報を関係会員に提供するとともに、本会主催の学会や講習会に、愛玩動物看護師等の参加を呼びかけている
- ・自由民主党山口県支部連合会主催の政策聴問会に、勤務獣医師の処遇改善等に関する要望書を提出した

- ・結婚祝1件、病気見舞3件、弔慰1件を交付した
- ・県獣医師会館新規取得では、8月に第9回検討会議を開催した

議題2～議題4は、10月末に開催された総務委員会での説明と同様（令和6年11月号会報掲載済み）ですので省略します

議題4の役員報酬規約の改正の協議では、常務理事の月額報酬（20万円）を、65才未満の常務理事については、県の再任用職員と同等程度の年支給額となるよう、8万円増額して月額28万円とする規約改正案を説明しました。出席支部長から、「他の団体や県再任用職員も今後、報酬等が増額されると思う。再任用職員と同等程度にするのではなく、もっと増額すべきである」との意見がありました。

このため、議長（田中会長）は、65才未満の常務理事の報酬をもっと増額する役員報酬規約改正案を理事会に提案する旨説明し、了承を得ました。

最後に、白永伸行副会長の挨拶で閉会となりました。

会議終了後に、山口県獣医師会館建築現場を見学していただきました。

## 令和6年度第3回理事会開催報告

常務理事 酒井 理

令和6年11月7日(木)午後1時30分から、山口市小郡ふれあいセンターにおいて、令和6年度第3回理事会が開催されました。

田中尚秋会長の挨拶の後、次の5件の議案について審議していただきました。

- 第1号議案** 令和6年度上半期事業の実施状況について（報告事項）
- 第2号議案** 新たな山口県獣医師会館の取得について（報告事項）
- 第3号議案** 役員候補者推薦規程の一部改正について（承認事項）
- 第4号議案** 役員報酬規約の一部改正について（承認事項）

**第5号議案** 新規加入会員について（承認事項）

第1号議案～第4号議案の説明は、第1回支部長会議と同様（今月号会報掲載）ですので省略します。

第4号議案は、支部長会議での意見を踏まえ、65才未満の常務理事の月額報酬を10万円増額して、月額30万円（年支給総額3,960千円）とする改選案について、審議していただきました。

第5号議案では、6月の第2回理事会以降、3名から入会申込があったことを説明しました。

承認事項の第3号議案、第4号議案及び第5号議案は、いずれも全会一致で承認されました。

白永伸行副会長からの閉会挨拶の後、新会館建築現場を見学していただきました。



## 岩柳支部研修会レポート

岩柳支部 弘 中 由 子

(柳井農林水産事務所畜産部)

令和6年10月27日、岩国市福祉会館において、岩柳支部の研修会が行われました。

当支部は、例年、知識の幅を増やし社会経験を積むことで信頼される獣医師として活躍すべく、獣医医療とは異なる分野をテーマにした研修会を開催しております。

今年度は、研修委員会の熟議の結果、テーマを「救急救命」とし、当日は、岩国地区消防組合の藤村先生と櫻井先生を講師に迎え、「普通救命講習会I」を受講しました。

研修のテーマは、「あなたのおかげで助かる命がある」（救急救命における基礎的な知識技能を得て、いざというときに適切な行動をとれるように備える）とのことで、16名の参加者一同、動きやすい服装とスニーカーにて集合しました。

最初に、30分程度の動画視聴による基礎的な知識を勉強しました。その中で、意識不明の方を発見した際、普段通りの呼吸が観察できなければ、人を呼んで救急車の手配とAEDの手配をしたうえで、すぐに心臓マッサージを実施する、とのことでした。

学生の頃の臆げな記憶では、まずA（気道確保）ではなかった？そのあとB、、、Bってなんだっただけ？などと一人で取り乱しながらお聞きしていたところ、最近では、心拍についてはその後のアドレナリン投与等により戻ってくるが増えたとのことですが、意識をなくした直後に、救急救命が正しく行われず無処置で経過した方が、社会復帰する例はほとんどないようで、本日の目標は、意識を失われた方がなるべく社会復帰できるような救い方を学んでもらうことだ、と熱く語っておられました。

心臓マッサージは、1分あたり110～120回となるよう、両手を真っすぐにして押す場所がずれないよ

うに指を組んで重ね、垂直に胸部を押すよう教えていただきました。人工呼吸については、抵抗がある方は必ずしも実施する必要はないとのことでした。机上での研修を終えた後は、いよいよ、デモ人形を前にした実地演習が始まります。

4～5人のグループに分かれて、一人ずつ心臓マッサージの練習を行いました。まずは、倒れている方の意識の確認、意識がなければ、「誰か来てください」と助けを呼び、相手を指定しながら、「あなたが救急車を呼んでください」「あなたがAEDを手配してください」と（責任の所在をはっきりさせながら）依頼した後、心臓マッサージを開始します。

助けに来てくださる方が近くにおらず、自ら119番通報した場合は、スマホのスピーカー機能を付けたままにしておく、消防の方から電話を通して助言がもらえるのでそうしてほしいとのこと。自分の番が来まして、実際にやってみると、動きやすい服装とはいえ、2分間がとても長く感じました。この作業は、消防隊が到着し、消防士の方と交代するまで頑張っているそうです。

その後、AEDの使用方法について説明を受けた後、一人ずつ演習を行いました。

AEDの設置場所は「AEDマップ」で検索をかけるとGoogleマップ上に出てきます。こちらについては、電源を入れた瞬間から音声案内が流れる上、非常に簡単で分かりやすい仕様であると感じました。

研修を終えた後は、岩国駅前にある肉バル「ラフテル」にて懇親会が行われ、会員同士の親睦を深めました。お洒落な店内と美味しいお食事、店員さんの大きなペッパーミルに釘付けの子供たち（社会勉強のため3人の子供を同席させていただきました）。親子ともども、大変有意義な時間を過ごしました。



## 山口支部研修旅行開催報告

山口支部長 藤原 宣 義

山口支部では、毎年開催する研修会のうち、2年に1回は、研修旅行を企画し、会員の研鑽を深めているところです。

今年の研修旅行には、支部会員11名が参加され、11月17日(日)～18日(月)、島根県大田市と美郷町を訪れました。

あいにくの雨模様で、予定していた三瓶山の散策は断念しましたが、初日は、島根県立三瓶自然館サヒメルや三瓶小豆原埋没林公園を訪れ、三瓶山の自然や、約4000年前の三瓶山の噴火による埋没林の発掘などについて学びました。

2日目は、「麻布大学フィールドワークセンター」を訪問しました。同センターは、美郷町と麻布大学との人材育成、産業振興、教育・文化の振興などについての協定締結をきっかけに、2019年3月に開設された麻布大学の初のサテライト施設で、獣医学部や生命・環境科学部の学生とともに、主に野生動物の行動学や野生動物による農林業被害・生活被害などの研究が行われています。

センターに常駐されている江口祐輔教授から、研究内容や地元と連携した取組などを紹介していただきました。一部を紹介します。

- ・全国の狩猟頭数は、平成9年の20万頭から110万頭に増加しているのに、被害は増加している
- ・山にいる野生動物ではなく、人の生活圏の里に入ってきた野生動物対策が重要
- ・担い手不足等により、放置竹林、放置果実など、野生動物が、里に来やすい環境になっている
- ・イノシシは跳躍能力があるが、畑に入る時に飛ぶことはなく、網の下をくぐって入るので、網の隙間を無くし、強度を高めることが大事
- ・地域が一体となって、①放置竹林や放置果実をなくす等の環境管理、②田畑を囲う等の措置、③適切な捕獲の順に取り組む必要がある

野生動物の生態や行動についての研究に基づく地域と一体となった野生動物対策が進められた結果、全国的には、数パーセントの狩猟動物の利活用が、美郷町では5割を超えていると説明がありました。

野生動物による被害に困っている参加者も多く、電柵を設置する高さや設置方法など、具体的な質問が寄せられていました。

研修終了後は、江口講師の案内により、地元のジビエ料理店で昼食をいただき、帰路につきました。

今後とも、支部会員の意見を聴きながら、研修テーマや訪問先等を検討し、有意義な研修旅行にしたいと考えています。

終わりに、今回17回目となるマイクロバスの運転をお願いした山口支部の松田芳行先生に感謝を申し上げて、報告を終えます。



島根県立三瓶自然観サヒメル



麻布大学フィールドワークセンター



説明される江口祐輔教授

## 新入会員紹介



はじめまして。この度山口県獣医師会に入会しました金指湧真です。あまりいない名字でいつも聞き間違えられるので敢えて書きますが「かなざし」と読みます。

去年4月より山口県周南市にありますシラナガ動物病院に勤務しています。

生まれは東京都で高校まで埼玉県で過ごしてきました。また去年まで群馬県の動物病院に勤務していました。

出身大学は北里大学で、今年で勤務医として8年目を迎えました。今まで寒冷地域で過ごしてきたので、山口県は比較的暖かく過ごしやすいと感じております。

趣味はレザークラフトで最近では時間もなくて型紙から作ったりすることもなかなか出来る時間もありま

徳山支部 金指湧真

(シラナガ動物病院)

せんが、隙間時間で古いレザーバッグの修復をするのが好きです。

さて、縁もゆかりもない自分がなぜ周南市に引っ越してくるようになったかという野犬問題にとっても興味があったからです。関東圏では野良猫の問題はあっても、野犬が多く存在する地域は私自身聞いたことなく、それに伴ってか地域的にバベシア症が流行している事実に興味関心をもったことがきっかけです。

実際に住んでみると本当に身近に野犬がいることに驚愕しました。公衆衛生的にも精神衛生的にも一刻も早く解決しなければならない問題だと常に考えて過ごしています。

新参者で至らぬ点多いかと思いますが、獣医師会の皆様、今後ともよろしく願いいたします。

山口支部 三好未緒

(Carna 犬猫クリニック)

はじめまして。この度山口県獣医師会に入会いたしました三好未緒と申します。2024年6月に山口市宮野にて犬猫のリハビリテーション専門のクリニック「Carna (カルナ) 犬猫クリニック」を開院いたしました。

出身は山口市、大学も地元山口大学へ進学、在学中の所属は外科研究室です。2008年に卒業後、大阪府の動物病院へ就職し、勤務獣医師あるいはパート獣医師として小動物臨床に従事。また、臨床医として働く傍ら、専門学校にて愛玩動物看護師や、ドッグトレーナーを目指す学生に非常勤講師として動物福祉や栄養学の講義を行っていました。

働いている中で動物の理学療法に出会い、興味を持ち、テネシー大学のCCRPコースを全て受講後(諸々の事情から認定にはいたっておりません)、近年は一般診療を行わず、“リハビリ担当獣医師”として小動物



臨床に関わってきました。

動物のリハビリテーションはまだマイナーな分野ですが、地元山口市でも多くの飼い主様にリハビリテーションを知って欲しい、一般的な動物病院ではなかなか時間を割くことができない分野を担うことで、山口の小動物臨床を支えていきたい。とい

う思いで開業に至りました。

私生活では小学生と中学生の娘がおり、娘たちにも私の育った山口市でのびのびと成長してもらいたいと思っています。母親業と獣医師業の両立は大変なことも多いですが、育児の経験がリハビリテーションや介護・介助指導に繋がることも多い様に感じています。



はじめまして、この度山口県獣医師会に入会いたしました、岡本土毅（しき）でございます。

本年10月に山口大学共同獣医学部 共同獣医学科 生体機能学講座 獣医生理学・生化学研究室に准教授として着任いたしました。

私は、広島県の北部、庄原市で生まれて高校時代を広島市で過ごし、北海道大学獣医学部に進学しました。その後、岩手大学、東京都臨床医学総合研究所、生理学研究所と渡り歩き、9月までは琉球大学医学研究科第二内科に所属しておりました。日本全国の風土をほぼ体験し、我が国は何処でもとても綺麗で何かしら美味しい好物が見つかる安全な国であることを実感しております。

私は、摂食行動を制御する脳神経ネットワークの詳細解析を得意とする脳科学研究者です。これまでは主にヒト医学領域に籍をおいて、脂質と炭水化物の食べ分けを決定する食嗜好性制御神経をマウス視床下部内に発見し、その神経活動を制御することにより肥満や代謝病の予防・改善を目指しておりました。また、アルコール依存症や認知機能障害の改善に貢献できる食品由来有効機能成分の機能解析に従事してきました。

この度、自身の源流である獣医学領域の研究教育ポストに戻る事が叶いましたので、山口県の獣医療の発展ために役に立つ新しい研究テーマを推進したいと考えております。獣医療技術の発展に伴い伴侶動物の健康寿命は延伸されてきましたが、ヒト同様に糖尿病を含む代謝病やがん、認知機能障害の発

地に帰ってきて、私自身も懐かしい雰囲気や自然豊かな環境にほっとしています。特殊な形態の病院であること、私自身にまだまだ未熟な部分があることなどからご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いたします。

山口大学支部 岡本土毅

(山口大学共同獣医学部)

症率も同時に増加しております。これら疾病の発症率をさらに増悪する共通要因が「肥満」です。私はペットの健康寿命の確保、治療費削減、健康なペットとの共同生活をもたらす飼い主の幸福度アップを目指して、脳科学を用いたアプリーチによりペットの肥満を改善して関連疾病の発症抑制に貢献したいと考えております。そして、この理念を受け継ぐ次世代の研究教育に専心いたします。

「食」という漢字は「人を良くする」と書きます。私が食嗜好性を研究テーマに選んだ理由は、心を豊かにする美味しいものを探して食べる事が大好きだからです。山口は海も山も豊かで本当に美味しいものが沢山存在しているので、食べ過ぎて説得力がなくならないように心がけたいと思います。歩くよりもバイクに乗っている方が得意なライダーである私は身軽にどこでも行けるので、山口の美味しいものを教えていただくと大変ありがたく存じます。何卒今後ともよろしく願いたします。

深い感謝とともに



## リレー随筆

### 昆虫の世界

さかた獣医科の阪田先生よりバトンをもらったNOSAI山口中部地区家畜診療所の中常です。現在5歳と2歳の男の子2人の子育て中で、慌ただしい毎日を過ごしています。

子供が動物好きになったらいいなと思って、動物図鑑を買ったり、動物園にせっせと連れていくのですが、長男にはイマイチ響いていません。その代わりにこの春から彼は急に昆虫に夢中になっています。今時の子供らしく、YouTubeばかり見ているのですが、いつの間にか履歴は昆虫系の番組ばかりになっていました。オニヤンマが虫を食べている映像など、うわーっと思いつつも「トンボって本当に肉食なんだな」とついつい一緒になって見てしまいます。

私は昆虫が苦手なのですが、仕方がないのでこの夏は昆虫のイベントに何度か行ってきました。中でもきらら浜自然観察公園で行われた「夜の公園で生き物探し」は、学芸員さんの説明を聞きながら、日ごろは入れない閉園後の園内を歩いて生き物を観察することができ、大人でも楽しめました。まだ明るいうちは干潟の穴を覗いてカニ探し。だんだん薄暗くなってくると木の枝に止まって休息するトンボが何種類も見られました。知識ゼロなので、トンボは羽を閉じて止まる種類と、羽を広げてぶら下がるように止まる種類がいることを初めて知りました。トンボは暗くなると眼が見えないそうで、ちゃんと木に戻してやらないと地面に落ちてグルグル回っていました。さらに真っ暗になるとノコギリカミキリなど夜行性のカミキリムシもたくさん観察できました。参加している子供たちはとても昆虫に詳しく、ライトで照らしただけで、種類を当てていて驚きました。

バッタや蝶も好きですが、やっぱり男の子はカブ

山口支部 中常路子  
(山口県農業共済組合中部地区家畜診療所)

トムシやクワガタが特別なようです。カブトムシを飼いたいと言っているけれど、一般人にはなかなか捕まえられないし、普通の家では飼うことができないとごまかして今年は乗り切りました。余談ですが私は昆虫図鑑を見ていて初めて、カナブンがカブトムシやクワガタの仲間だということやセミやアメンボがカメムシ目だということを知りました。これらは子供がはまらなかったら知らなかったことだし、カブトムシなんてこの先も飼う機会もないだろうし、来年も虫好きだったら飼育に挑戦しようかなと考え中です。

次回は熱しやすく冷めやすい、NOSAI山口の岡山先生をお願いします。



どこでもバッタを探しています

## ゾウの体重測定

徳山支部 藤原果南

(周南市徳山動物園)

徳山動物園ではハツカネズミのような小さな動物からゾウのような大きな動物まで、およそ100種の動物を飼育しています。動物が健康に暮らしていくために健康管理はとても重要なことで、その1つに体重測定があります。特に多頭飼育している動物や大きな動物は、毎日の観察だけでは体重の変化に気付くことが難しく、定期的に体重測定を行うことで客観的に評価をすることができます。今回は体の大きなゾウの体重をどのように測定しているのか、健康管理の1つとして行っているゾウの体重測定についてご紹介させていただきます。

多くの動物園では「ハズバンドリートレーニング」を行い、動物にかかるストレスを可能な限り減らした状態で治療や体重測定などを行っています。ハズバンドリートレーニングとは動物が自ら、飼育管理や治療に必要な動作をとれるようにすることを目的としたトレーニングのことで、トレーニングを行うことはアニマルウェルフェアの観点からも重要であるとされています。当園のゾウもトレーニングを行っており、号令をかけることでゾウに動作の指示を出しています。体重測定は月に1回のペースで行い、その増減に応じて給餌内容や給餌量の見直し

を行っています。

これまでゾウの体重測定は車両用の重量計量機器を使用して行っていました。これはゾウに指示を出して、2枚の計量板の上に前肢と後肢を片方ずつ乗せさせて、反対側の肢を浮かせた状態にして体重を測定するというものです。この方法ではゾウが計量板の中央に足を乗せた状態にしなければならないため、飼育担当者の的確な誘導とその誘導にゾウがどれだけ正確に応えられるかということが重要で、体重測定を行うのにも双方の技術が求められていたのですが、この様子をSNSでご覧になった徳山計量器株式会社様がこの度、ゾウの体重測定をより安全かつ簡便に行うことができるように体重計を寄贈してくださいました。この体重計は通路一体型となっており、体重計となっている場所でゾウを静止させることで体重を測定することができるため、より簡単に行うことが可能となりました。11月1日には体重計寄贈式が行われ、地域の企業の皆様に応援いただいているということを改めて実感することができました。寄贈いただいた体重計を大いに活用してゾウの健康管理に役立てていきたいと思っております。



計量板の上に乗り体重測定を行うゾウ



新しい体重計で体重測定を行うゾウ

## 訃報

### 藤村修人先生を偲んで

徳山支部事務局 木原 一郎  
(周南市徳山動物園)



徳山支部会員の藤村修人先生が11月7日に逝去されました。享年92歳でした。

昭和7年生まれの先生は、ご家族の仕事のご都合などで、四国などで青春時代を過ごされ、地元の山口大学に進学されました。

大学を卒業された後は、しばらく農業共済で大動物の診療に従事されていましたが、当時の徳山市役所に入庁され、主に農政部局で畜産の業務に当たられていました。当時、徳山市では市の北部を中心にした「都濃肥牛」のブランド化に取り組んでおり、先生はその畜産振興に従事されていました。

その後、徳山市立動物園に飼育係長として勤務さ

れ、野生動物の診療にも携われて来られました。その後、再び、市役所の畜産部局に戻られて、徳山市の獣医師としての業務を定年まで果たされました。

私が、徳山動物園に赴任してしばらく後に、2週間の長期休暇を取得した折には、無理をお願いして現場の診療へ出ていただ際にも快くお引き受けいただき、温厚で優しいお人柄をありがたく感じたものでした。

徳山支部の会合や行事へも、よくご参加いただき、少しお耳が遠くなられて、「なかなか話が聞こえないんだよ」と笑いながらおっしゃっていた様子が思い出されます。

藤村修人先生の今までのご尽力・ご功績に感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈り致します。

## 第10回山口県獣医師会館検討会議開催報告

常務理事 酒井 理

令和6年11月21日(木)午後1時30分から、山口市小郡ふれあいセンターにおいて、第10回山口県獣医師会館検討会議が開催されました。

田中尚秋会長の挨拶の後、網本昭輝委員長の進行により、協議していただきました。

協議の概要は次のとおりです。

### 議題1 会館建築工事進捗状況について

- ・建築工事は順調に進んでおり、すでに大工工事、外装工事が終了している
- ・今後、給排水、内装クロス、電気設備工事等が実施され、12月末に建物の完了検査を受ける予定
- ・令和7年1月初旬から外構工事に着手し、1月末には、工事完了・引き渡しとなる予定
- ・旧獣医師会館は、建物の規模から消防法の規程に基づき、非常警報装置等が設置されていたが、新会館は、これらの設置がないため、火災等に備え、機械警備を導入することとした
- ・書類戸棚等、これまで使用してきた備品を可能な限り使用することとし、応接セット、会議テーブル、事務机等を新たに購入することとした

### 議題2 竣工式について

- ・新会館引き渡し・仮事務所等からの引越を終えた後、2月16日(日)に、竣工式を行うこととして、準備を進める
- ・竣工式では、関係機関・団体から来賓をお招きし、工事関係者、本会会員により、神事を執り行い、式典終了後に新会館の見学会を開催する予定

検討会議終了後に、新会館工事現場を見学しました。足場が外され、外壁には既に「山口県獣医師会館」の文字盤が設置されていました。



## お知らせ

## 広島県獣医師会小動物講習会の開催について

(公社)広島県獣医師会から次のとおり開催案内がありました。

受講を希望される会員は、12月19日(木)までに、メール又はFAXにより本会事務局に申し込んでください。

- 主催：(公社)広島県獣医師会
- 日時：令和7年1月5日(日) 9:00~16:00
- 場所：広島グランドインテリジェントホテル 2階 芙蓉  
(広島市南区京橋町1-4 TEL082-263-5115)
- 演題：「戸島・末松の呼吸器診断学 part 2」  
「肺を深掘り&喉頭蓋疾患・気管切開に備える」
- 講師：公益財団法人日本小動物医療センター第一画像診断科 科長 戸島篤史先生  
AMC末松どうぶつ病院 院長 末松正弘 先生
- 参加料：3千円

## 今後の主な行事(予定)

- 12月1日 ・中国地区小動物講習会(山口グランドホテル)
- 12月1日 ・ペット動物同行避難訓練(周南市)
- 12月5日 ・第2回小動物部会委員会(小郡ふれあいセンター)
- 12月21日 ・中国地区獣医公衆衛生講習会(米子市)

## 事務局だより

- 11月7日 ・第3回理事会(小郡ふれあいセンター)
- 11月10日 ・産業動物講習会(防長苑)
- 11月11日 ・会計事務所協議(仮事務所)
- 11月12日 ・第72回和牛共進会(山口市中央家畜市場)
- 11月13日 ・第44回ホルスタイン共進会(山口市中央家畜市場)
- 11月19日 ・会報編集委員会
- 11月21日 ・第10回獣医師会会館検討会議(小郡ふれあいセンター)
- 11月23日 ・獣医公衆衛生講習会(防長苑)
- 11月23日 ・北九州市獣医師会50周年記念式典(北九州市)

7日 21日 事業推進会議

次回編集委員会 12月19日(木) 13:30~

山口県獣医師会会報 第763号 令和6年12月10日(毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷